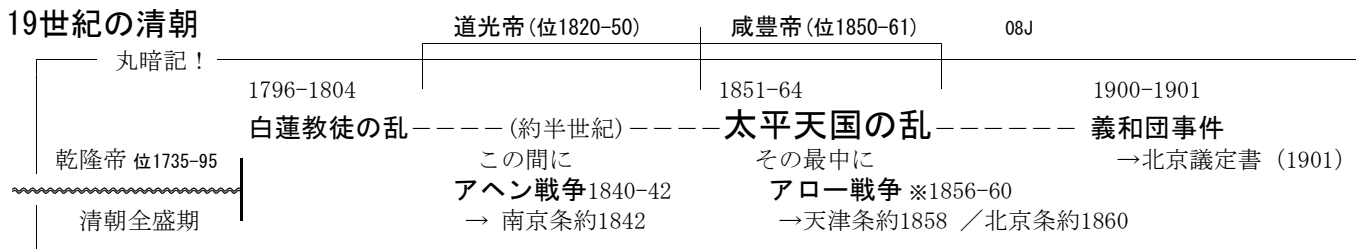


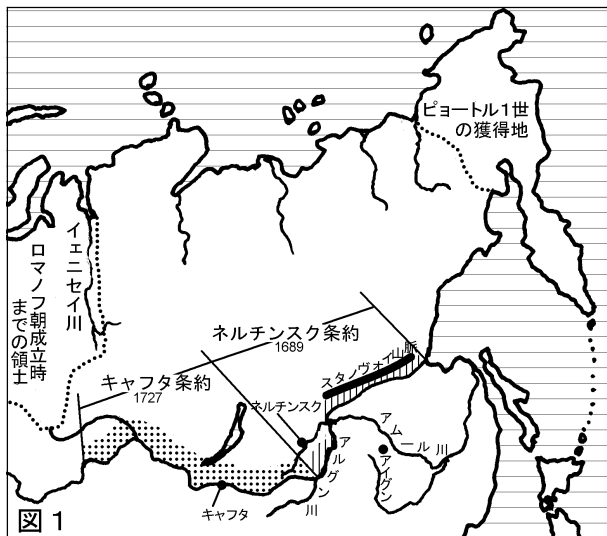
19世紀の清朝



※ 第二次アヘン戦争 とも言う。

- 1) 清朝の全盛期は康熙帝 位1661-1722 雍正帝 位1722-35 乾隆帝 位1735-95 の3代 W大は漢字で書かせる!  
清の支配のもとで領土は広がり経済発展がめざましく、人口も急増した。18世紀の100年間に倍増、約3億人に。  
18世紀末、乾隆帝 位1735-95 の外征などで国家財政は赤字になり、官僚らの不正も加わり民衆の負担は増大、土地不足で農民は貧困化、入植が限界に達した地域では緊張が高まり、内政全般に問題が出始めていた。  
①江南では【1: 漕運】(こうそ)の運動 ……小作料不払い運動  
②抗糧(こうりょう)……土地税(地丁銀)の減免を求める土地所有者の抵抗運動  
③農民反乱は続発し農地を求めて移住した先で少数民族との紛争もおこった。例:苗族(ミャオ族)の反乱
- 2) 9年に及ぶ農民反乱=【2: 白蓮教】1796-1804 四川を中心とする新開地 (元代の「紅巾の乱」も白蓮教)  
①鎮圧に10年近い歳月とばくだいな費用を要し、その後も農民反乱相次ぎ、清朝の財政を窮乏させた。  
②八旗(はっき)・緑營(りょくえい)の清朝正規軍より【3: 捻軍】(だんれん)や【4: 白蓮教】(きょうゆう)が自衛や鎮圧に活躍し、清朝の弱体化は明白だった。団練・鄉勇についてはNo.155で詳述する。白蓮教徒の乱だけでなく、太平天国の乱でも英米人の率いる常勝軍とともに鎮圧に功績をあげた。
- 3) 18世紀後半以降、ヨーロッパ勢力が進出し、清朝を中心とする東アジアの国際秩序を脅かした。最初はロシアとイギリスだった。以下に見ていこう。

露清国境の画定



- 1) 【5: 17世紀】  
1689年、南下してきたロシア(ピョートル1世)を清(康熙帝)が打ち破り、締結された。清が外国と対等の立場で結んだ最初の条約であり、清に有利な内容となっている。この国境線を言葉で言うと、「スタノヴォイ山脈(外興安嶺)とアルグン川を国境とする」。アルグン川はアムール川の源流の一つ。
- 2) 【6: 18世紀】  
1727年、清(雍正帝)がロシアとの間に締結したモンゴル方面の国境・通商条約。ロシア皇帝はピョートル2世。(エカチェリーナ1世の没年だがピョートル2世の即位後である。)  
なお、上記1) 2)において、ロシアと清は対等であったとされ、いわゆる不平等条約ではない。ロシアの野望は打ち砕かれた。
- 3) 上記1) 2)による陸上国境において露清の交易が行われていたが、エカチェリーナ2世は1792年ラクスマンを北海道の根室に送り通商を求めたが要求は拒否された。  
なお、この時、日本人漂流民大黒屋光太夫を送還した。  
《参考》『おろしや国酔夢譚』井上靖 1968 映画化(1992)

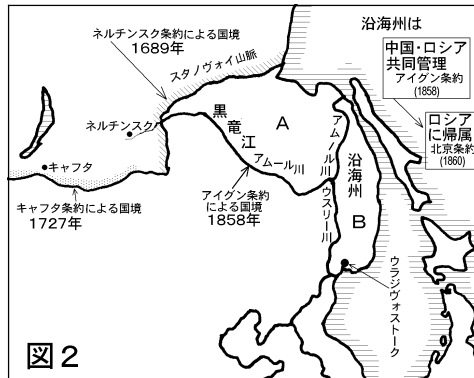
通常の記事順を無視して引き続き19世紀の露清国境画定条約について述べる。4) 5) は、もはや対等の条約とは言えない。なお、ネルチンスク、キャフタ、アイグン、イリは都市の名前。

- 4) 【7: 1858年 咸豊帝 アレクサンドル2世】  
ロシアは、アムール川以北(図2のAの部分)を獲得し、アムール川の通航権を得た。これは清にとって屈辱的な条約である! この時図2のBの部分(沿海州)は両国共同管理となった。実質的にネルチンスク条約の効力は完全に失われた。

アロー戦争(第二次アヘン戦争)による清国内の混乱に乗じた東シベリア総督ムラヴィヨフが、停泊中のロシア軍艦から銃砲で威嚇し、清国全権に認めさせたとされる。なおアムール川は黒竜江とも呼ぶ。参考楽曲『アムール河の波』

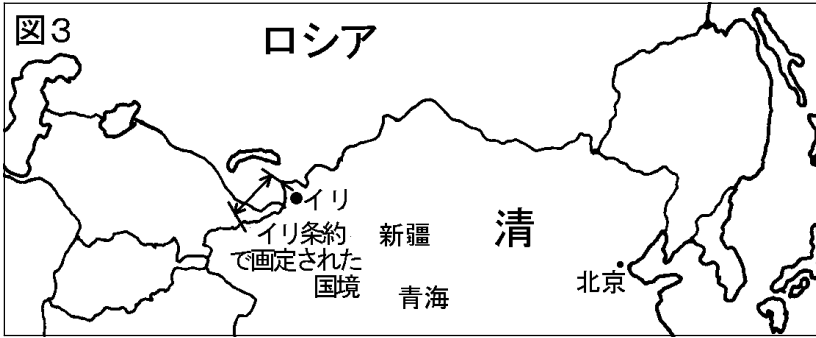
- 5) 露清北京条約 1860年 咸豊帝 アレクサンドル2世  
1860年、ロシア公使ニコライ=イグナチェフが列強と清の間の北京条約の締結交渉を仲介した見返りにロシアは沿海州(図2のB:アムール川に合流するウスリー川以東)を獲得した。東シベリア総督は引き続きムラヴィヨフであるが仲介したのはイグナチェフ。なお、両名ともニコライである。ロシアはこれでウラジヴォストークが使用可能になった。ウラジヴォストークとは「東方を支配せよ」の意味である。

1860年、東シベリア総督ニコライ=ムラヴィヨフは海軍基地ウラジヴォストークの建設に着手したが、翌年退任



している。20世紀初頭には概ね開通したシベリア鉄道でロシアの中心部と結ばれ、ロシア極東政策の拠点となった。日本海海戦の際、補給・休養不足のバルチック艦隊は対馬海峡を抜けウラジヴォストークを目指していた。

6) 【8:                   】 1881年                   光緒帝                   アレクサンドル2世



《作業》 図3に前掲1)から5)の国境線を書き込もう。

1862年、ロシアに征服されたコーカンド=ハン国（イスラーム王朝）の残存勢力が新疆のイリ地方に侵入し独立政権を建てようとした。ロシアはこの機に乗じてイリ地方を占領した。清朝の左宗棠らはこれを撃退し、1881年にペテルブルクで締結されたイリ条約でイリ地方を返還させた。ロシアは貿易上の利権を得た。  
 なお、19世紀後半には、シャイバーン朝の滅亡で自立した遊牧ウズベクのヒヴァ=ハン国・ブハラ=ハン国・コーカンド=ハン国を併合して、ロシア領トルキスタンを構成した。No.86参照

### 自由貿易を押しつけるイギリス

- イギリスは18世紀後半には中国貿易をほぼ独占していた。しかし、乾隆帝は1757年、貿易制限令を発し、
  - 清の貿易港を【9:                   】1港に限定（これは南京条約で計5港に増加）、かつ、
  - 外国貿易ができるのは【10:                   】コホン、こうこうと呼ばれる広州での外国貿易を独占する特許商人の組合（「広東13行」とも呼ばれる）に限る（これは南京条約で廃止される）。しかも、それらの前提として、
  - 貿易は中華が与える恩恵に過ぎないとの立場を崩さず、あくまで「朝貢に付随する貿易」しか認めないという形式を厳守した。当然、「朝貢する国」しか貿易できない。正使は北京に赴いて皇帝の前で三跪九叩頭（さんききゅうこうとう）する義務がある。
- 広州の対外貿易の大半はイギリスが占めていたにもかかわらず、イギリスの綿製品は全く売れず、世界に冠たる工業国のイギリスが一方向的な輸入超過の状態にあった！！

- 紅茶を飲む習慣が広まり【11:                   】の需要が増大した。（喫茶の習慣は、当時は中流以上の人々）
- 古来、中国産の生糸、絹織物、陶磁器はヨーロッパのセレブたちの憧れであり、実によく売れた。
- 綿布などイギリスの工業製品は、中国ではさっぱり売れなかった。（産業革命は綿織物業から始まる）

イギリスは一方向的な輸入超過となり銀の流出が続いていた。これを「片貿易かたぼうえき」とも言う。

- イギリスは、工業製品が売れないのは、厳しい貿易制限のためだと考え、貿易改善の使節を清に派遣した。要求したのは、市場拡大と朝貢貿易の形式の廃止、公行などによる貿易制限の廃止。

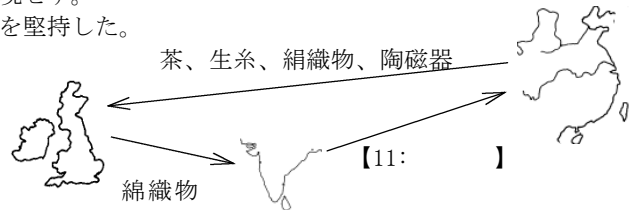
《使節の名前は頻出》 1793年①【12:                   】1737-1806 熱河で乾隆帝に謁見。  
 1816年②【13:                   】1773-1857 嘉慶帝に謁見できず。

乾隆帝は三跪九叩頭を要求したが①は片膝をつく英流の儀礼で対応、謁見に成功したが要求は全く実現せず。

②は三跪九叩頭を巡って折り合いがつかず謁見すら実現せず。

清朝はこれらの要求を拒否、朝貢する国とだけ貿易を行う方針を堅持した。

- イギリスは、18世紀末から※、【14:                   】をおこなって銀の流出を抑制しようとした。  
 イギリスの綿布をインドへ輸出、インドで強制栽培させた【15:                   】を中国に密輸出。これで得た銀で茶、生糸、絹織物、陶磁器を買い、イギリスへ。こうして、1830年代には銀は逆流するようになった。



※ 『詳説世界史』（山川出版社）はこの時期を19世紀初めとしているが、18世紀末とするのが一般的である。

1833年 イギリス議会は、自由貿易主義の流れの中で、【16:                   】の对中国貿易独占権を廃止し、翌1834年には、その全ての貿易活動を停止させた。多数の貿易商社が対中国貿易に乗り出し、アヘンの密輸量は激増。1830年代には、中国のアヘン輸入額は茶の輸出額を上回った。今度は中国から大量の銀が流失、銀が暴騰して清の財政を圧迫し、地租を銀納する農民を苦しめ、アヘン吸飲の風習が一層蔓延した。イギリスの初代貿易監督官ネーピア卿は、既に1834年に香港の占領を建議。全権商務総監エリオット（任1836-41）は林則徐と対決、後にアヘン戦争を遂行した。

- 道光帝は【17:                   】1795-1850を登用。彼自身の提案で道光帝は1839年、林則徐を廣州に派遣、アヘンの取り締まりを強化した。彼の役職名は、【18:                   】きんさだいじん。

・・【18】とは特定の事項について皇帝から全面委任された臨時の大臣である。

1839年 イギリス商人が倉庫に保管していたアヘン2万箱を没収・処分！  
 処分と言っても焼いたら大変なことになる。海水と薬品で無害化したとされる。彼はイギリスの圧力で罷免され左遷されたが、良い仕事をし続けた。

1839年 イギリス議会9票差で開戦を議決。  
 ジャーディン=マセソン商会のロビー活動の影響とも言われる。08W  
 グラッドストーン（当時は保守党）は「恥ずべき戦争」と開戦に反対。



林則徐